

トビウオ通信 (R6 第8号)

https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《令和6年秋季におけるケンサキイカ漁況予報》

山陰沿岸での秋季（9月～12月）におけるケンサキイカの漁況は、日本海南西海域における資源状況が関係していることが知られています。その情報を基に、浜田の沖合底びき網漁業（8月）と県内各地におけるいか釣漁業（9月～12月）の漁獲量の関係からケンサキイカの漁況予測を行いました。

漁況予報の概要

対象魚種:ケンサキイカ秋季来遊群(秋季:9月～12月)

対象漁業:いか釣漁業(5トン未満船、5トン～30トン船)

対象地区:出雲地区(松江～出雲)、石見地区(大田～益田)、隠岐地区(島前～島後)

漁況予測:1日1隻当りの漁獲量は、不漁であった前年を全ての地区で下回る。

予測に関する情報

秋季に山陰沿岸に来遊するケンサキイカ（秋季来遊群）は、来遊前は日本海南西海域の大陸棚上に広範囲に分布しています（図1）。

夏季（8月）に九州から山口沖で浜田の沖合底びき網漁業（以下「浜田沖底」）により漁獲されるケンサキイカは、秋季（9月～12月）に沿岸域に来遊するもの同一資源と考えられています。実際に浜田沖底といか釣漁業でのケンサキイカの漁獲

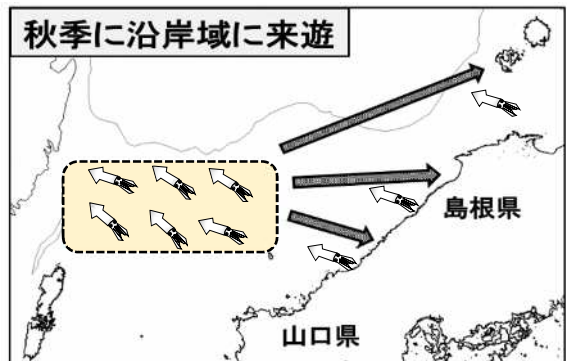


図1 秋季におけるケンサキイカ来遊イメージ。大陸棚上に分布していたケンサキイカは秋季に沿岸域に来遊する。

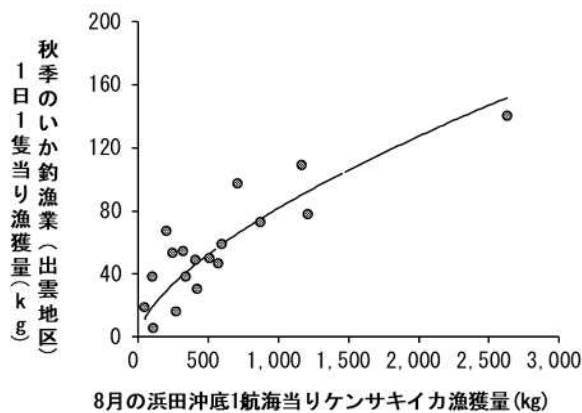


図2 浜田沖底（8月）といか釣漁業（秋季、出雲地区）の漁獲量の関係。

浜田沖底で漁獲されるケンサキイカの量が多いと、いか釣漁業の漁獲量が多い関係にある。石見地区と隠岐地区も同様の関係がみられる。

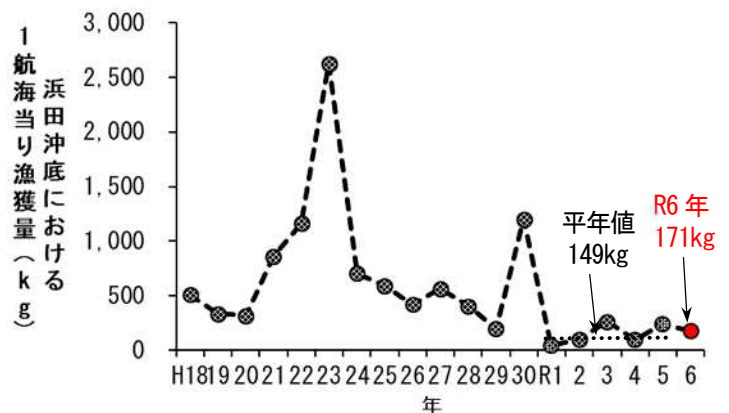


図3 8月の浜田沖底における1航海当りケンサキイカ漁獲量の推移。

状況には強い関係性がみられます（図 2）。

令和 6 年 8 月の浜田沖底における 1 航海当りケンサキイカ漁獲量は 171kg（図 3）で、前年の 239kg を下回り、平年値（令和元年～5 年の 5 年平均：149kg）をわずかに上回りましたが、低い水準でした。このことから、令和 6 年秋季に沿岸域に来遊する前の日本海南西海域のケンサキイカの資源状況は、近年同様の低い水準にあると考えられます。

ケンサキイカの漁況予報

8 月の浜田沖底の 1 航海当りケンサキイカ漁獲量といか釣漁業の 1 日 1 隻当りの漁獲量の関係（図 2）から、各地区の秋季の漁獲量を予測しました（図 4）。

【出雲地区（松江～出雲）】

秋季の 1 日 1 隻当りの漁獲量は約 27kg と予測され、前年（54kg）を下回り、不漁前の平成 30 年の水準には及ばないと考えられます。

【石見地区（大田～益田）】

秋季の 1 日 1 隻当りの漁獲量は約 32kg と予測され、前年（64kg）を下回り、不漁前の平成 30 年の水準には及ばないと考えられます。

【隠岐地区（島前～島後）】

秋季の 1 日 1 隻当りの漁獲量は約 23kg と予測され、前年（35kg）を下回り、不漁前の平成 30 年の水準には及ばないと考えられます。

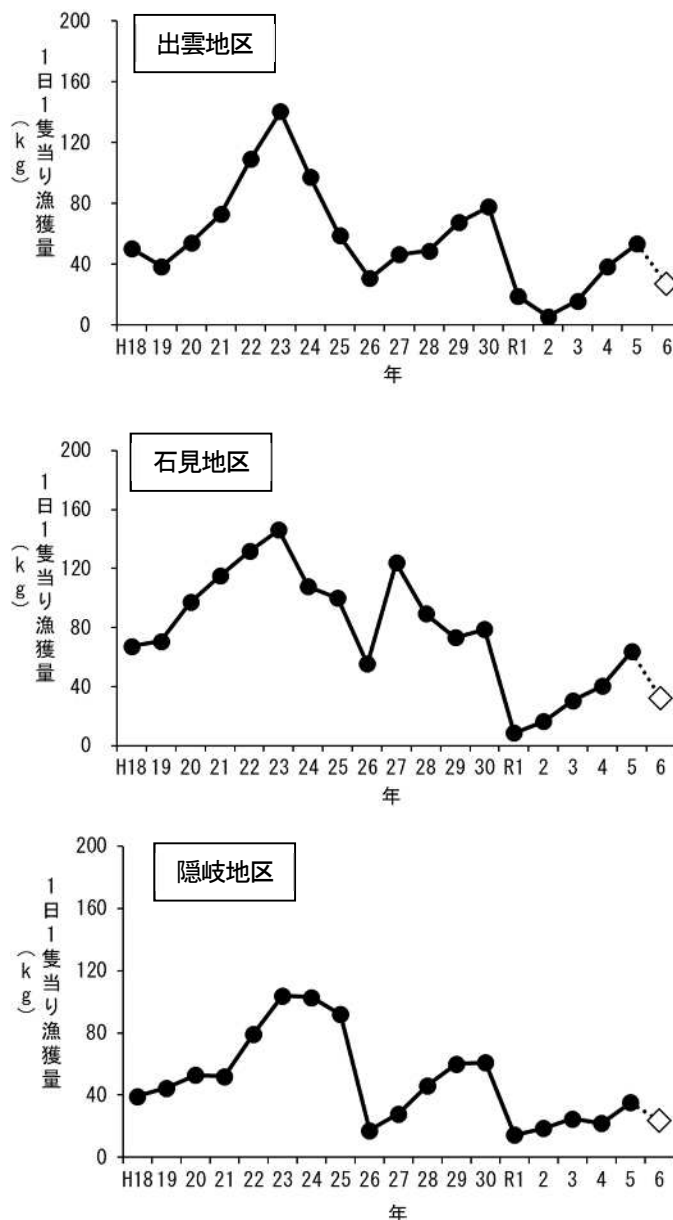


図 4 各地区のいか釣漁業における 1 日 1 隻当りの漁獲量（9 月～12 月）の推移。令和 6 年は予測値。